（大正十四年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和四年四月十二日　磐城新聞　【金曜日】　第二千五百七號　（一）

磐城新聞

（十一日夕刊）

休刊　大祭日第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢増）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

磐中時代の回顧（四）

齋藤昌武作

そして一年二年の間はよい成績で入學出來たものゝ中にも成績のわるくなるものも少くなかつた自分もたそらくその一人であつたらう。然しどうやらして二年になつた當時高月の新校舎も着々その工を終へ當時の三年以上が高月へ移轉した。そして舊校舎で兄分になつたのが俺達の級だつた、一年生を弟と思つて大切にするならよいが中には隨分、兄きどりでいばりちらすものも少くなかつた、新校舎の上級生が今の二年は生意氣だとたこつていたからだかしれぬが當時は所謂ストライキが流行した、上校生が坂の下に待ちうけて生意氣なやつがなぐられた、兎美俺達の級はそんな臺校舎の兄きどりで段々きかなくなつて主任の先生などをてごずらしたものだつた、上級の人々は下駄をはいて兵式体操をやつた様な元氣な村長とあだなされへK君があた、そして當時の五年生はスポーツも盛んで柔、劍、テニスなど全國中學界へ覇をとないた運動部が多かつた、今考へると當時の五年生等には今より年ノ多い人が多くあつた様だつた。

三、三年級になつた

わけわからず遊んでゐ中に何時か三年にまでなつた物理だの化學だの、いろそうな學科がふいた。白い等の物理の先生はSとを云ふフトッタ先生だつた、今はなくなつたが面白い先生でダルマ、ダルマと云はれてゐた、先生にあだなをつけるのは惡いことに相違ないが腕白盛りの自分等には惡氣もなく面白半分に色々といたずらをした時は實驗用の水道の水を出しばなして、しかられたこともある、後で考へて見ると何んの惡い氣でもなかつた、そう云ふ先生ほど卒業後はすまなく此時までも忘れられな

三年と云ふとそろ〳〵半大人じみて來た、弟かふゐて益々いばりちらしてゐた、當時俺達の級には劍道部にも競技部にもよい選手がゐて体育大會などには上級生と四年五年をしのぐ勢だつたそして高月の新校舎に俺達も移轉した、八幡の森々通つて今迄より希望を輝かして通學した當時は今考へてもなつかしい、時にも停車場前の黄金燒ゝ先生の目をかすめた時もあつた、當時は先生など眼中にない位にまで俺達はきかなくなつてゐた

四、上級生々活

こんな風で何時のまにか學生活も終りにかゝつてゐた、すきなことをして通學するのだから面白いものと長くいればいゝなど思つたこともあつた、四年になつて受驗準備して高校へ行く人もあつた様だつたが俺達にはそんな連中が馬鹿に思はれ人生くよ〳〵するなかれだ何時はたよだつて成功する何をか苦しんで勉強するか、体育が大切だ體さへ丈夫ならそれでよい勉強ぎらいな自分等はこんなことを云つて、やせがまんをしてゐた、俺は一度五年生になぐられたことがあるそれは自分の歩き方が惡いと云つくれたこつたから、これは親ゆづりだからしかたがないと云つて笑せた後でその人は俺にあやまつた自分もわけなく人をたゝく様なやつは成功出來ぬと思つて氣にもとめなかつた事實その男は俺より駄目らしい、五年生など眼中にないやせさんして大通りをいばつて歩いた、人が競走で勝つも自分が、この様にうれしかつて自慢したものだつた背嚢はいて通學しつゝ破れ洋服を着てあるくのが特意だある時俺も下駄どはき、背嚢をわきにかゝへて特意然と本學生の中を歩いてゐると「おい」「たい」と聲をかけるものがある、たぶん友人だらうと思つてうしろをむくとそれが大橋と云ふ化學の先生だつた、これには流石の俺も困つた、下駄はどうし……しかたなく俺も笑つた先生も若者の心を知つてゐるからだか知れぬが笑つてゐた、後で友人に話したら大笑だつた

明日の吉凶

舊曆三月三日　新曆四月十二日

▲一白　妄擧を戒め努力を惜まざれば大吉日と成る▲二黒　何事にも手堅く一歩〳〵と進むが安全の日▲三碧　投機心を起さず空想に耽らず常業大切の日▲四綠　依賴心を去り己の力を以て焦らず進むに吉▲五黃　無理の競爭は失敗を招く基自重漸進すべし▲六白　表に現れざる苦勢の潜む日神佛詣でが吉▲七赤　一波去れば一浪又追ひ來る焦らば破れの基ゐ▲八白　目上と隔意を生じ易き日兎角平和が勝なり▲九紫　目上の引立であり朋輩の助けもある辛運に

講談

幕末[illegible]

(205)　渡邊默禪作　宮野歌春畫

「ねッ、此の人たちはゆすりに來たんだ、そんな難題を吹かけて若干か物にしようと云ふ目算で來たんだ。ゆすりだ、ゆすりだ番頭どん何故ぐず〳〵してゐるんだね、早く自身番の人を呼んで來て名主さまへ突き出して了ひな」おまんは鋭く呼んだ切端詰まつての逃口上所謂ヒステリカルクライである

「む、違ひねえ、そうだ」と氣に鞭打たれたかの様で富藏はにわかに勇氣を盛り返した今はそれが一番だゆすりにして叩き出した後で又如何様にも云ひ勝きが出來る、追拂つて息を吐くのが此の場合かしこい方法である「奴ッ覺えてゐろッ」とむつくと立上るその首へ發矢と鬼の腕がとんで來た

「逃げるなッ！大惡黨！」破鐘の様な大喝聲、今まで一語も發せずに冷然としてその爭を傍觀してゐた梶原梅雄、此處が立つべき時である彼は立つた躍り揚つた靜かなる時の彼は羊の如く怒かれる時の彼は虎の如くである、ばたりッ、どーんアレー氣立ましい物音の下に、富藏は只一はたき膝にしかれて呻いてゐる、逃げようとするお萬はずる〳〵と曳戻されて首根ッ子を一掴み悲鳴を揚げながら男ども共に細帶でぐる〳〵と縛り上げられてしまつた

「ソレ、早く雪江さんをッ」と梅に促がされて近江屋は急ぎ駈け出した、戸外に待たせてある勘太郎を呼び込んで鍵を探すやらぼんぼりを點けるやら只もう狂喜有様にあるがら〳〵と網土藏の扉をあけて眞先に躍り込んだ勘太郎は一分と經たぬ中に

「たやッ、お、お雪は死んでるッ」と叫んだ

是より前藤屋の店先で一場の喜劇が演せられた當夜に於ける攻擊軍は用意頗る周到であつた先づ時間をわざと夜にして近江屋と梶原とが表から正式に乘込んだ面會を求むる口實としては丁稚淸吉の親元から託ゝとを然し賴まれよんどころなく本人と親戚の者が同道して來たのが迷惑、もあらうが一寸。會つてくれと申込んだ富藏も梶原の顔を知らないので實際淸吉の緣者であらうと思ひうまく〳〵と擔がれて了つたのである。

別動隊としては例の音五郎表店の門口に陣取つて警戒してゐた、又裏門には音五郎の部屋のぐわえん、威勢のよい若者が二人で嚴重に固めてゐた、家の者は一匹も外へ出さず袋詰めにして征伐しようと言ふ一般方略であつた。

でないと自身番や五人組名主などへ馳けつけられへたに騷ぎ立てられると計劃が狂つて面倒になるからである。

油虫が鼠を退治る様に裏表とも洩れなく手が廻つてゐるとも知らず奉行人等は初めの中はどうなることかと手に汗を握つてゐるが、談判いよ〳〵猛烈になつて内儀の悲鳴諸共ドタンバタンと云ふひゞき、素破こそ大變だ、ドタンバタン初めたぞこりや大騷ぎになつたうしちやゐられないソレ頭の所へ行け！近所へ知らせろ！と騷ぎ立てゝばた〳〵と戸外へ駈け出そうとした

廣告

平町南町　上田醫院　電話一二九番

平町田町　赤心堂病院　電話四七五番

磐城自動車學校ノ創立

青年諸君我等ハ我等ノ心身ニシッカリ合ッタ職業ヲ撰ビ其ノ職業ニ依リテ運命ヲ開拓スベキデアル近時文明ノ第一線ニ立ツ交通ノ利器自動車ノ運轉手位面白ク愉快ニ紳士的職業トシテ前途洋々タルモノハ有ルマイ、現今運轉手ノ増加ハ自動車ノ増加ニ伴ハザル現狀ニアリ既ニ運轉手トナランカ年少氣鋭ノ若者ニシテ既ニ相當ノ收入ヲ得テ且ツ失業ノ憂ナク引張リ凧ノ有様斯クテ殊ニ優秀者ニ至リテハ各雇主ノ大歡迎ヲ受ケツヽアル新時代ニ急先鋒トシテ活氣ニ充タサレテ生々ト働ク亦男子ノ快事ニアラズヤ然ルニ現時之等希望者ニ對シ之ガ操縱法及學術技能ヲ修得スルニ多額ノ費用ヲ要スルハ遺憾ナリ我磐城自動車學校ハ最低廉ナル費用ヲ以テ其目的ヲ達セシメ尤モ完備セル設備ト老練ナル敎師ヲ聘シ時代ノ新要求ヲ達成センガ爲創立シタル次第ナリ來リテ見ヨ而シテ諸君ノ最善ヲ發起シ諸君ノ運命ヲ開拓セラレン事ヲ

▲本校ノ内容（學則希望者ハ申込次第送附ス）

受驗科　一ヶ月卒業　學術技能ノ經驗アル者
授業料（學科實習費共）一ヶ月金參拾五圓
T型フォード　新フォード　シボレー

速成科　二ヶ月卒業　初心者ニシテ速成ヲ望マルヽ者
授業料（學科及實習費共）一ヶ月金參拾圓
T型フォード　新フォード　シボレー

本科　三ヶ月卒業　初心者
授業料（學科實習費共）一ヶ月金貳拾五圓
T型フォード　新フォード　シボレー

但シ授業料ハ各科共前納ノ事
入學資格尋常小學校卒業者及ビ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

▲本校練習用自動車ハ
▲シボレー　▲新フォード　▲廿七年式フォード
▲本校ニハ通學ノ出來ヌ生徒ノ爲ニ寄宿舍ノ設備アリ月額約十八圓デス

新學期開始　昭和四年五月一日

公認　磐城自動車學校

四月一杯ハ　平町二丁目尼子自動車部　電話六四〇番ニテ取扱フ

貸切自動車の御用命は　昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い　昭和タクシー
平驛前
電話は　三四三番　サシミ

梅毒（ばいどく）と體毒（からだのどく）を切らず注射せず治（なを）す

ヘルツ丸

◎梅毒。りん毒。下疳毒。横痃。梅瘡。しつ毒。毒性リウマチス。ひゑ毒。せきずゐ。痔疾。腦梅毒。遺傳梅毒。惡性皮膚病其他

藥價（輕症用三圓。重症用五圓。頑固用十圓。根切德用廿圓。試用二圓。一圓）

地方一手特約店　平町五丁目角　山野邊藥局

外科一般（入院隨意）
内臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

生花教授

池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町十五丁目通り　須藤まつの

第三回謝恩特別三大白眉篇公開
四月十一日替御案内

◇松竹名畫◇林長二郎、千早昌子、浦波須磨子
新譯　切られ與三　全
原作……前田孤泉
歌舞伎の與三を裏切り新譯になる本篇こそ松竹時代映畫の白眉

東京大阪毎日新聞所載　原作　三上於菟吉
後篇　激流　全
高木永二、中野英治、岡田時彦、入江たか子、小杉勇、島耕二、夏川靜江、三桝豐

原作　志波西果　◇山本嘉一、松本泰輔
明治鮮血外交　妙國寺事件　全
明治の創め近畿に起る血涙悲壯なる史實を映畫化せるもの……山内容堂公を中心とし國難外交たれが此國難を救ふ見よ明治外交の鮮血史よ

お節句（舊三月三日）とありますル　土曜學生デー
普通席金十錢（爲謝恩）
平館

營業種目

内地材　材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達請負　其他

（百）佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵金物問屋　（久）釜屋商店　諸橋久太郎
電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

小名濱の大敷網に裁判所が仲裁

先づ投網を中止させて 結局當然白井氏

石城郡小名濱町の大敷網問題は白井側では業務妨害の告訴を提起し同時に假處分を申請したのに對し一方高橋側からも平署に對し權利擁護を願ひでゝ來てゐるので警察當局では手をつけることも出來ず兩者の對抗は益々深刻化して來た、斯くの如く危險な狀態にあるため假處分の申請を受けた平區裁判所では事態を益々惡化させるやうなことがあつては取かへしがつかないことになるので兩者の衝突を避けさせ同時に兩者を妥協せしむるために十日投網する豫定であつた、白井側に對してゝ投網を延期するやう注意をなしたが玆二三日中に二百名以上の漁夫が衝突して流血の慘事を惹起するものと見られてゐたのが裁判所當局の對策に依つて何の滯りなく當然の既得權者たる白井氏の營業權に決するものの如くである

四倉消防檢閱 優良組員を表彰

四倉署管下五百名の春季消防檢閱は十日午前九時四倉海岸に於て擧行され終つて左の如く表彰式を行つた

△久の濱消防手遠藤正春外十四名
△大久保村比佐伍長外十三名
△四倉町仁田伍長外十名
△大浦村根本組頭外廿一名
△草野村佐藤伍長外二名
△大野村佐藤小頭外三名

郡下町村選拔の武道試合成績

十日松ヶ岡公園で 成績と功勞表彰

既報石城郡忠魂祭當日恒例に依る郡下町村優勝旗爭奪戰は午前十一時より小澤教師審判の下に執行されたが成績は

△澤渡廿九點△平廿五點△夏井廿二點△磐崎廿二點△好間二十點△赤井十七點△神谷十四點△湯本十三點△內郷十點△大浦七點△玉川四點

澤渡村廿九點を獲得し晴れの優勝旗は澤渡村に歸したが更に個人の高點試合は一等三瓶(二六人)二等志賀(五八)三等佐藤(五八)四等塙操(四八)五等鈴木(四八)六等根本(三八)七等石川(三八)で各々賞品を授與されたが弓道試合は各町村から四十八名の選手が選拔され決勝の結果內郷村の手に優勝旗は握られた猶劍道弓道功勞者として祭主より木杯一個宛賜られた氏名左の如し

山崎與三郎 伏見彥衛 下野十朗 本馬武 室直與 堀井正直 鈴木忠正 飯田十三 [illegible]小澤吉 渡邊太治郎 望月彥藏 廣木榮之助 猪狩菊三郎 梅津松吉 木村總三郎 吉田佐內 草野又三郎 草野三郎 小野萬吉 草野佐一郎 鈴木丑松 高木源治 久 保田眞 村上龜之助 黑 木義顯 三坂右馬吉 平 山藤吉 永山久助 鈴木 平 數馬定藏 草野又藏 松本茂次郎 永井億彌 酒井嘉藏 五十嵐濟

新割用の手斧で背中を割る

きのう藤原炭礦長屋で 被害者生命危篤

石城郡磐崎村藤原炭礦第三十八號長屋居住安積郡新井田村上ノ台生れ工夫渡邊喜藏(四〇)は十日午後八時頃隣家なる茂呂醫造の背部を長さ一尺餘の薪割り用の手斧をもつて突き差し瀕死の重傷を負はて同村駐在巡査に捕はれたが急報に接した平署では十一日若林警部補出張し詳細取調中であるが醫造は生命危篤で原因調査中

新シボレー 花嫁號 あす平を練る

平町材木町磐城自動車商會では一九二九年式新シボレー一號自動車宣傳の爲め十二日午後一時から花嫁自動車を運轉し市內にビラを散布する事となつたが花嫁自動車は運轉手が紋付袴の正裝で運轉し花嫁に正裝した藝者が同乘し自動車は純白であると

木炭檢査 事務所で指導

濱三郡木炭同業組合では四月一日から木炭の品質改良の目的から等級檢査を執行しつゝあるが最初の試みであり檢査員の査定と組合の標準とか異つてゐるやうな事があつてはならないと來る十八日組合の事務所に等級檢査を行つた、木炭をあつめて査定を行ひ、組合の標準に異つてゐないかどうかを檢査する事になつたが此の結果差異があるやうな場合[illegible]員及び間違のない樣標準木炭を作製して檢査員に與へる由で、何ほ十八日から二十日まで三日間を同組合事務所に於て檢査員の指導を行ふ由である

惡い染物屋 鎌田へ說諭願

平町田町染物業鎌田善六に對し各地より染物注文主より種々の苦情を平署に訴へて來るが山形縣鶴岡町阿部吉太郎外十二名連署で染物注文品の取戻し說諭方を十一日平署に願越した

本社員觀櫻 十三日夜尼子亭で

本社々員、の觀櫻會は來る十三日(土)午後六時より松ヶ岡公園尼子亭に於て開催の筈

低利資金不用 借入れを見合す

平町外十四ヶ町村から曩に地方資金として政府から借入ることに決定した三十三萬八千五百圓は政府の貸付け豫定から遲れた爲め簡易生命から融通を受る事になつたので借り入れ不用になつたので縣を經て見合せ方を申請した

酌婦にお灸 花見前の南町

平町南町の酌婦窟は全縣下に知れ渡つてゐる程有名で平署では之が取締には常に頭をなやましてゐる殊に花見時は酌婦の書入れ時であるゝ街頭に出て客の登樓を强要する位ならまだしも昨年の如きは公園にまで出張つて客を漁つた事實もあり盛んに風紀を紊したので今年は斯かる事のないやう街頭に出る事すらも禁止して居り南町飲食店佐々木熊吉方の酌婦田中サイ(三)易瀬サク(三)の兩名は九日客の登樓を强要したかどで平署ではお灸をすゑられたが平署では花見時を前にして嚴重取締る方針である

大道の中で 親子摑み合ひ 平署前の珍劇

新潟縣生れ當時住所不定青木勝次郎(五三)は十日午前十時半頃泥醉して三女なつ(一三)を平町に女中奉公をせしむべく徘徊中臨もあらうに平署前に於て些細のことから娘と口論を始め果は親子摑み合の喧嘩となつたのを署員も驚いて飛び出し暴れてゐる勝次郎を取押へ譴責說諭を加へたが同人は娘三人あるが何れも女中奉公に出し酒を飲み歩いてゐるものであるがこの珍劇に署前は見物人で黑山を築いた

平町議 噂に上る人々(五)

混頓として闇雲低迷の 一、二丁目の卷

一丁目

一丁目に於ける町議選を前の空氣を見る、鷹崎貞衛渡邊貫一兩氏の再選說と坂本隆藏氏を一期煩はさんとするもの外、更に比佐信太郎氏擁立の輿論等も岐れ亘り未だ大勢の一致を見てゐないものゝ如くである、鷹崎氏は既に二期を勤め上げ多事な私學校の經營傍々實業にも關係し倒底その範に耐えぬから强いて「出たいとは思はぬ」と洩らしてゐる由なるが

町內 には鷹崎擁立の熱心者もあれば鷹崎氏本人も滿更ら「嫌や」と云ふ譯りもなく六七分通り再出馬は稍々確實性があるもの見て差支ひがない、一方渡邊貫一氏も未だ立候補を宣言はしないが今一期だけは是非とも出さねばならぬと頑張り出す區民もあり本人自身も出馬の腑をかためたと云ふから鷹崎、渡邊兩氏の兩出馬は今や動かぬ所である、處が一方擁立される坂本隆藏は今時町會でもあるまいと氣乘りもせず容易に動くものとも思はれないが比佐信太郎氏の起意强く何でも彼んでも立候補すると言明してゐる由であるが比佐氏は長橋町の遠藤林松氏と義兄弟の間柄にあり遠藤氏の起否如何は可成り比佐氏の得票に影響するものあるは遠藤氏が噂の如く出馬を斷念した、なれば

比佐 氏の勢力は可成りに根强く一丁目は相當の混戰を免れぬものと豫想されてゐる

二丁目

二丁目の現町議丹野榮三郞、柏原眞吾の兩氏中丹野氏の起否如何は豫側出來ないが柏原氏は再起の野心掩ふ可くもなく既に起意を洩らし時到らば直ちに戰陣を張らんとしてゐる所に區民の內には區長山崎孝之助、關內正一の兩氏を擁立せんとの輿論可成りに强く公認候補者を決定するまでには幾多の曲折を免れぬものゝ如くである、元來二丁目は鈴木堅助、三井文吉、谷口仁太郎等の諸氏引退後町會議員としての適任者を失つたかの如き觀むつたが最近に至り新顏の實力家や少壯者の擡頭を見、何期も一人占めの自由に委して置けぬと云ふ强硬な議論が可成りに强い模樣である、丹野氏の起否如何は兎も角、柏原氏が既に出馬を宣言せる今日「それなら」と引つ込むものとも思はれず山崎、關內氏等の擁立派も其の儘では納まるまい

たゞ 關內氏は町內一致の推薦なら兎も角、公認候補三人の仲間入りをしまでの希望もないらしく山崎氏も同じく關內氏と讓り合つてお互ひ遠慮のやり通しをするとなれば結局は柏原、丹野兩氏の公認を見る事となるかも知れぬが何れ目下の處何れともせぬ五里霧中を只ならぬ空氣が低迷してゐる許りである。

小學教員試驗

平第一小學校に於て來る十三日から二十七日まで五日間に亘り高等尋常正敎員、尋常科準敎員、專科正敎員、幼稚園保姆の檢定試驗がある

平火保遞率 第二段の運動

平町火災保險料率引下げ運動については屢報の如くであるが十日午後四時から平町役場に於て井上消防組頭から關係者第一囘交渉の顚末を報告し第二段の運動につき協議する答であるが相當强硬な運動を起すものと見られてゐる

◁◁◁◁◁◁ 世は辛黨の天下

砂糖代より三萬圓多い 平町の酒の消費

昨一ヶ年間に平驛に到着した各種砂糖の總トン數は實に二千百九十一トンの貫數五十九萬千五百七貫であるがこのうち平町に於て消費されるものは三分の一即ち三十九萬四千三十八貫、一貫目平均價八十錢と見て三十一萬五千餘圓に上つてゐる一方石城郡內における清酒の消費量は約二萬石中平町に於て消費される石高は約三千五百石に達し總石數の四分の一となつてゐるがこの石高を一石百圓と見積つて實に三十五萬圓の多額か腹の中に入るわけであるこの酒と砂糖との金額の上から比較して見れば酒代は砂糖より三萬五千圓多く消費されることになるが稅務署の調べに依ると酒の消費は砂糖以上に增加し行く傾向にあると

母を捨てゝ 情夫と駈落 平署へ捜査願

田村郡三春町字八幡町白石サヨ長女ワキ(三〇)は三月二十七日夜活動見物に出掛けたまゝ歸宅しないので家人は八方捜査中であつたか風のたよりに聞けば活動寫眞巡業映寫技手林重雄に誘拐され平町地方に居るとのことで母ワキより十一日平署に捜査方願ひ出たが右巡業は目下植田方面に巡業をなしてゐるので行衛捜査中

國体科學講演會

里見岸雄先生を迎へ 十二日公會堂で

平町敎育會、明治會磐城支部主催平町青年團後援の國体科學大講演會は十二日午後六時半から平町元郡會議室に於て開く事となつたが講師は日本文化學研究所長里見岸雄先生で氏は世界的國体科學の創建者として知られ二十六才歐米漫遊を試み日本文化の宣揚につくした獨文、英文外數種の著書あり歸朝して西宮市に日本文化學研究所を建設し絕えず國体學の科學的研究建設に努め日本國体學極論その他著書は天覽の光榮に浴した名著で實に日本有數の少壯學者で平町地方には初めの講演であり當日は盛會を豫想され

磐城郷友花見

在福磐城郷友會の春期總集會は來る二十一日午前十時から郊外辨天山の大原氏別邸に於て開催するが同時に大觀櫻會をも併せて開催する

平署管內聯合 消防檢閱 廿日磐中庭で

平署管內四町十八ヶ村二十二組の消防聯合春季檢閱は二十日午前十時より櫻咲く平町磐城中學校庭において執行する事となつたが當日の參加者は約四千八を算され花の松ヶ岡公園を中心に空前の盛況を呈するであらう

松坂屋へ合格

平職業紹介所に於ける東京上野松坂屋の店員採用試驗は應募者九名のうち伏見桂二(原ノ町)藤田藤一(川部村)の二名が合格し十四日名古屋本店に見習として入店すると

春の歡樂に 品質本位の
白鶴
どうぞ御用命の程願上ます
芳醇銘酒
辰ノ口本家
平窪 松本德一
電話(平)七五二一番

七福會觀櫻 十三日公園で

平町七福會主催になる觀櫻會は來る十三日午後一時より松ヶ岡公園尼子亭附近に於て開催するが會費三圓、肴、都てでん、花見だんご、うどん、生そば、酒等、山海の珍味そろひ、紅裙の斡旋ある筈で申込み既に七十名に達し希望者は三丁目大谷時計病院宛申込まれたいと

助川町から 六百の客 十四日松ヶ岡へ

茨城縣助川驛長並いばらき新聞助川支局長柏木哲氏主催となつて平松ヶ岡公園の櫻花を廣く觀賞すべく六百名の觀櫻團を募り來る十四日(土曜)午前八時十分特別列車を仕立て途中勿來驛下車し勿來ノ關を見物十一時半平驛に着くが平町ではこの觀櫻客を歡迎の意味で花火を打ち上げるがこれら團体の花見客で平町は空前の賑ひを呈するものと觀

かみくづ

吉野家の長松は最近老いて益々旺むに各方面の同情を博してゐる、して見ると縮は柳の下に集まり同情は人の好いところに集まるものと見ゆる◆尤も人相から見るとオデコは人が好いものだと書いてある、其アトに惡に近しなんては書いてあるまい、額の出はのがれた人對しならた尻の出たのは目カーかも知れない詳しい事が聽きたければ見料をたし出し上下五十錢、按摩ちやなよ◆處で此の長松はアノ年で男の看板借もサガシてゐるそうだ尤も看板料は女から出すといふのだから己れで知るものといふべしか、申込まれたい、と書いたらトヂ蓋を所持の諸君は早速「おら方ンゲイナ破れ鍋でなどガンセン」といふかも知れない。

藤田女學校バザー
□期日 四月十三、十四、十五日(午前八時より午後五時迄)
□品目 縮緬重物各種二千餘點
どなたも御來觀歡迎
文部大臣認可 藤田女學校々友會
平町電話三二八

新築落成
耳、鼻、咽喉科 氣管食道科(專門)
平町南町(舊診療所向電一七〇番)
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極ぐ安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

內科 小兒科 其他一般(入院隨時)
前田醫院
植田町本町(電話一二四番)
前田清美
(看護婦見習募集優遇)

電燈より接續してすぐ寫る
家庭活動寫眞
パテーベビー活動寫眞機
映寫器 八〇、〇〇
撮影器 六五、〇〇
フヒルム 一本 二、〇〇 二、五〇
生フヒルム 一本 一、〇〇
市內はお伺ひして御覽に供します
御申越次第カタローグ進呈
パテーベビー社代理店
平町二丁目
西村屋藥舖
電話三八番